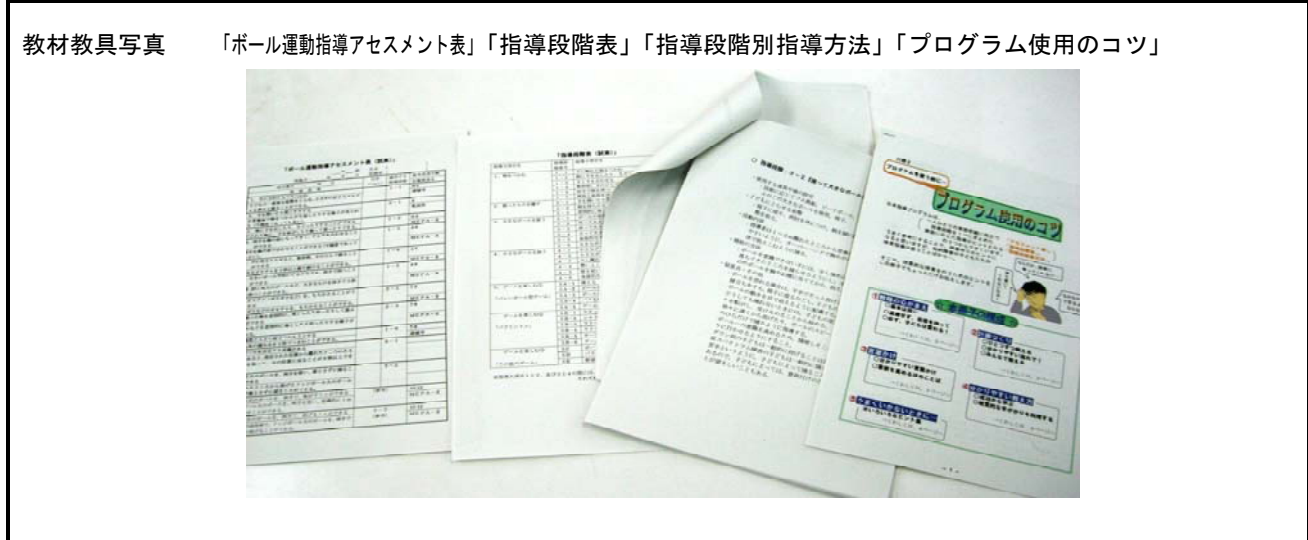


教材教具名	ボール運動指導プログラム	教科 (体育)
-------	--------------	-----------



教材教具の概略（ねらいと使い方） ※ 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等

1 ねらい

- ・ボール運動を指導するための実態把握，目標設定，指導案づくり，評価が簡単に行えるようになる概略的なツール

2 発達段階など

- ・運動発達の段階が6歳程度まで

3 使い方

- ①「ボール運動指導アセスメント表」を用い、学習集団の個別のボール運動発達段階を調べる。
- ②「ボール運動指導アセスメント一覧表」により、学習集団全体の発達段階の概略を知る。
- ③発達段階の近い児童・生徒で学習グループを作る。
- ④「指導段階別指導方法」に基づき、学習内容を単元化し、指導する。
- ⑤「ボール運動指導アセスメント表」により単元終了後の評価を行い、次単元での指導に活かす。
※指導がうまくいかないときには、「プログラム使用のコツ」の冊子も参考にするとよい。

児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等（次に利用する方のために）

- 初期のボール運動指導（主にキャッチボールができるようになり、簡単なボールゲームができるようになるまで）に関わる各指導段階における指導のポイントやコツをまとめたものである。
- 「プログラム使用のコツ」は、知的障害児教育をほとんど経験したことのない教員向けに、ボール運動の指導方法に関して、そのコツをまとめたものであるが、一つ一つのエッセンスは、どの教科、指導形態にも共通のものであるので、知的障害児教育の経験の少ない先生方には是非読んでいただきたい冊子です（絵や写真を多用し、分かりやすく読みやすい4ページの冊子です。）。
- プログラムを使用しての生徒の変化や教員の評価については、論文を見ていただきたいと思います（中1生徒8名の記録があります）。